



私の職場

専門学校を卒業して約8カ月、歯科衛生士としてはまだまだ駆け出しの私です。しかし、前田歯科医院に就職してから、短期間に多くのことを学び、経験し、自己の成長を感じています。そう言えるのも、当院の理念、特徴(システム)、そして院長を始めとしてスタッフが「前へ進もう」「常に改善していこう」という強い気持ちの下に團結しているからです。

当院は、東京都足立区の住宅街にある、開業15年目の予防管理型歯科医院です。1992年の開業当初、ある程度予想はしていたものの、「精密検査・治療計画に基づいた歯科治療」「予防管理のための定期的来院」という習慣がほとんどなかったこの地域では、安全性を重視し、時間をかけた丁寧な治療を行えば行うほど、また、予防を一所懸命やればやるほど、感動していただくよりも、「予防はもういいからとにかく早く終わらせてよ」「悪くなったらまたやり直すから。適当でいいよ」「痛くなったらまた来るから、とりあえずこだけ早く治して」といった不満を口にする方が増える状況だったといえます。

患者利益につながる予防歯科の考え方を理解していただくために、自分たちはどう取り組めばいいのか、夜も眠れなくなるくらい悩んだこともあるそうです。そして、試行錯誤を繰り返した末、現在の「予防診療システム」にたどり着いたそうです。

一般的な主訴対応型歯科医院ではないため、新患の方には、まず当院の診療スタイルや各検査、初期治療やメインテナンスの必要性、重要性を理解していただくための説明から始まります。予防管理型歯科医院では、このプロセスを明確にすることが必要です。

従来、歯科医師、歯科衛生士がこれらの



前田歯科医院
東京都足立区

★スタッフ数	
歯科医師	2人
歯科衛生士	4人
TC	2人 (うち非常勤1人)
助手	1人 (うち非常勤1人)
受付	1人
★ユニット数	5台 (うち2台、衛生士専用)

情報の説明やプレゼンテーションに多くの時間を割いてきました。もちろん、歯科医療にかかわるコミュニケーションには、歯科医師法、歯科衛生士法の遵守が求められます。つまり、「誰が」「どこまで」「どのよう」に説明できるかについては法的な制限があるということです。しかし、多くの情報の説明、プレゼンテーションは、歯科医師、歯科衛生士以外の「主にコミュニケーションを司る専門スタッフ」が行っても良いはず。こうして生まれた新しい職種が「トリートメント・コーディネーター」(TC)です。

このTCの活躍により、私たちは過大な時間を取られていた患者教育や情報のプレゼンテーション業務から開放され、より専門的な説明や効率の良い口腔衛生処置に時間を割くことが可能になりました。また、



目標を常に見据え 夢は専任歯科衛生士

山田良子

Yamada Ryoko

キャリア : 8カ月

現医院勤務 : 8カ月

クライアント(患者さん)も、時間を気にすることなくコンサルルームで納得がいくまで相談や質問ができるようになり、「信頼の絆」もさらに太くなりました。おかげで当院のクライアントは、初期治療やメインテナンスなどの歯科衛生士業務に対しても協力的です。

このような「コミュニケーション」は、TCだけでなく、予防管理型歯科医院の歯科衛生士にとって最も大切だということが最近わかってきました。予防管理とは、クライアント自身が毎日行うセルフケアと歯科衛生士が定期的に行うプロフェッショナルケアの双方がうまくいって初めて成立するものである以上、押し付けても効果は上がらないと思うようになったからです。自ら「歯を守りたい。生涯、自分の歯でいたい」と思い、そのためにはどうしたらいいかを知りたくなる。そして、予防管理の半分を担うプロフェッショナルケアを担当の歯科衛生士に任せたい、そう思ってもらうことが重要だと気付いたので。そのためには「良いコミュニケーション」と、それに基づく「信頼関係」が必要不可欠です。

治療の前にクライアントとおしゃべりをしていて、ドクターを後ろで待たせることもしばしばですが、決して叱られません。それは、コミュニケーションの重要性を医院全体が理解しているからだと思います。



唾液検査と位相差顕微鏡

予防管理を実践していく上で、クライアントにどうしても学んで理解してもらいたいものに、ペリオドントロギーとカリオロジーがあります。

ペリオドントロギーにおいては、初診時や再評価時の精密検査、デンタル10枚法、口腔内規格写真12枚法を『デンタルX』に入力し、プリントアウトしたもの(ペリオ



チャート含む)および歯周病模型などを利用して、歯周病の原因や進行状況、一般的な治療法や予防法などを学んでいただきます。

また、カリオロジーについては、唾液検査を行い、レーザーチャートと患者用カリオロジーレジメを利用して、「脱灰と再石灰化」から「予防プログラム」までを、約60分かけて理解していただきます。

実際の検査結果を示しながら一般論からご自分の予防プログラムまで学んでもらうため、「自分自身のこと」という意識で真剣に講義を聞いてくれるのです。

その後、初期治療の一環としてTBI時に位相差顕微鏡を使い、口腔内細菌を観察

してもらいます。モニターを見ると、多くの方が「うわー、動いてる!」「気持ちが悪い!」という感想を持たれると同時に、これらの細菌を取り除いてもっと清潔にした、もっときれいになりたいと思われれます。この時こそチャンスです。私たちはクライアントに共感し、個別対応のコミュニケーションを取ります。その後は、多くのクライアントが私たちの提案を真剣に、また快く受け入れてくれます。コミュニケーションの大切さを肌で感じ取る瞬間です。

今年度の目標は専任歯科衛生士

今、私は新人教育カリキュラムの真っ只中にいます。専門学校を出たばかりの頃は、あれもこれも、目に付くものはみんなできるとなりたい、一日も早く一人前になりたいと欲張っていました。しかし、現在は、今年度の目標をしっかりと立て、今、何を学ぶべきか、具体的にどうすれば計画が可能になるのか考え、実践しています。今月の目標、次は来月の目標というようにひとつずつクリアしており、まさに専任歯科衛生士に一步一步近づいています。

また、このような環境の中で、当院の歯科衛生士としてどんなビジョンを持って歯科医療に携わっていく必要があるのかも見えてきました。技術的なスキルはもちろん必要です。しかし、そのテクニカルスキル

の支えとなるメンタルな部分の重要性や大切さを、院長やスタッフ、そして私がかかわるすべてのクライアントから学びました。そして今もなお学び続けています。

開業以来、前田歯科医院の文化を創り上げてきた先輩たちを追いかけ、私はこれからもコミュニケーション能力を磨き、技術的な研鑽もさらに積んでいきたいと思っています。来年度には私が担当したクライアントから、たくさんの「ありがとう」の笑顔をいただくために。また、どんなに大きな仕事でも、スタッフを信頼して任せられる院長の気持ちに応えるためにも。



前田歯科の新人 DH 教育の方針について

- ① 人間性の向上を最優先とする
- ② 成長するためには、多くのチャレンジが必要
- ③ 多くのチャレンジは、多くの失敗を伴う
- ④ 同じ失敗は二度としないように原因追及と改善が必要(二度目の失敗は失態という)
- ⑤ 任せた仕事で失敗したら責任は院長が取る

カリキュラムについて

- ① 一流の社会人になるための心構えを身に着ける
「自分は、何のために生まれてきたのか」
「自分は、何のために仕事をするのか」
「一流の社会人とは」
「一流になるための夢の持ち方」
を知らなければ前田歯科医院では何も始まらない。
そのために、「佐藤芳直 新入社員人財化セミナー」を毎年受講。
- ② 感性を研ぎ澄まし、思考をまとめる力とコミュニケーション能力を身に着ける
「クライアントからの気付き」
「スタッフからの気付き」
「Dr.からの気付き」
を文章にする。

テクニカルスキルの向上にせよ、人間性の向上にせよ、まず気付くことから始まる。そのために日々、どんなに些細なことでも気付く訓練を行う。

また、文字数を可能な限り多く書くことが、相手から投げかけられた言葉に対する的確に即答する訓練となる。そして、コミュニケーション能力向上にもつながる。

そのため「気付きの日誌」を毎日、できるだけ多く書く。

- ③ 見えない相手に好感を持たれ、情報を的確に伝える力を身に着ける
・「電話対応セミナー」を受講
・院内勉強会でもロールプレイで合格するまで実施
- ④ 前田歯科医院職員(受付・TC・DA・DH・Dr.)チェックリストの160項目を3カ月ですべて合格すること
・自分で計画を立て、訓練し、チャレンジする
- ⑤ その後、前田歯科医院DHチェックリストの22項目を9カ月ですべて合格すること
・自分で計画を立て、訓練し、チャレンジする
- ⑥ 最終試験に合格すると専任DHの資格を与えられる

キシリトール100%のガムは、ミュータンス菌がいくら糖分を消費しても酸を産生することができず、ただ消費を繰り返すだけなので、そのうち菌自体の力を弱めることができます。フッ素ホームジェルはいろいろな味を揃え、大人にはミント、子どもにはグレープやバブルガムなどが人気です。この2つを合わせて使っていたり、クライアントのライフスタイルに合わせて、使いやすい方をおすすめしています。



キシリトールガム(100%)
株オーラルケア



フッ素ホームジェル
株オーラルケア

これが
私の
予防アイテム